



『インターネットが生活環境として馴染んでくると、インターネットの使えない環境ががまんできなくなる...』。電子メールを活用始めると、とくにこうした症状が強くなる。コンピュータはネットワークにつながっているからこそ便利なツールなのだ。この感覚を体験してしまった人にとって、ネットワークにつがっていないコンピュータはなんと魅力のないことか...。こうした症状にお悩みの諸兄には『^{移動先でもコンピュータも使う}モバイルコンピューティング』をお勧めすることにしてしよう。インターネットなら電子メールを読むだけでなく、いつも会社で使っているファイルサーバーを共有したり、自分のデスクトップのマシンのファイルを共有したりすることもできる。しかも、うまくコンピュータ環境を設定すれば、『いつもの』環境が『どこでも』再現でき、世界中どこにでかけても、同じように情報にアクセスできるのだ。そう『いつでもどこでもインターネット』、これぞ究極のコンピュータ環境だ。

塩田紳二 / 清成啓次 / 服部倉吉 / 編集部



パソコンを持って出かけよう!

モバイルインターネット 実践ガイド



MOBILE

世界を仕事場にするためのモバイル術

山根一眞(やまねかずま)



「モバイルコンピューティングなんて自分にはとても」と思う方も多いことだろう。しかし、その障壁の多くは先人たちによって克服されて、ノウハウとなって受け継がれている。まず、モバイルの達人の1人、山根一眞氏にモバイルコンピューティングの世界に案内してもらおう。

☎: 『情報の仕事術』でも詳しくお書きでしたが、今はどんな機材をお使いですか？

山根: 原稿執筆は、絶対にワープロです。書齋ではEZPSというキヤノンのDTPマシンで原稿を書いています。外出する際に使うのがシャープのWV-S250。それがいま3台あるかな。これはもう製造中止されたけど、この前、100台出ました。そういう情報は瞬時に入ります。弟子たちがくまなくおいをかいて歩いているんですよ。(笑)

☎: 持ち歩くのは、ワープロ専用機だけですか？

山根: 専用機でも、専用機でなくてもいいんです。Windows だろうとなんだだろうと重さが1キロを切って、フルキーボードで、どこでも通信できて、辞書の語彙数ができただけ多く、しかも変換効率がよく、アルカリ単三乾電池4本で最低20時間もつものでなければ、まともに仕事はできない。それをWV-S250は完全にクリアしています。

それでこのマシンを持ってどこに行っただかというアフリカのセネガル、イギリス、フランス、ルクセンブルグ、ドイツ、ベルギー、アメリカ、アマゾン...ほとんど全世界に行ってます。それで、つながらないというトラブルは一度もなかった。どこへ行っても強引につないでしまいますから、そ

の点ではずうずうしいマシンですね。WWWを見るときはDuoの280cを使います。

☎: モバイルコンピューティングにはPHSと携帯のどちらを主にお使いですか？

山根: PHSも3台ありますが、私はNTTの携帯です。どこでも確実につながるという点でいうと、僕は商売ですから、デジタルとアナログのドコモを各1台。デジタル・ハイパーのP型はいいね。デジタルでつながらない地方ではアナログ機に切り替えます。

ただし、PHSは非常に可能性あると思いますよ。だから売り出すときになぜ通信できることをまず宣伝してくれなかったのかなと思う。通信のためのアダプターも全然ないし。でも、情報山根組の1人はPHSサービス開始日に、外出先からNTTのPHSでアナログ接続して会社のマシンのメンテナンスをしてしまいましたよ。十分役立った。そういう時代になってきたというのうれしいことですね。

☎: モバイルするうえで、BBSとInternetの使い分けはどうされていますか？

山根: 今まだInternetは混乱期で昼間ほどこがつながらないとか、つながるけど高いとかありますね。それで私はいくつものプロバイダーに入ってます。ところがそうすると自分のメールアドレスをどこにするかが問題になる。結局、僕はNiftyにしたんです。Niftyなら、アクセスノードが一番多いということ、それから海外からでもCompuServeのノードから一発でNiftyに入れる。あれはすごいですね。TYMPASも使ってたけれど、今は全部CompuServe。設定をいちいち変えるのがいやだから。それがダメなときにはTYMPASかInfoNetに

しています。

先日、ルクセンブルグで開催されたEU Japan FESTAという国際シンポジウムでは私が司会を務めたのですが、そのときはCompuServe経由でインターネットに入り、その画面をシンポジウム中、ずっと会場に出してました。山根組の2人が進行に合わせてInternetの操作をして...

その直前に、僕のホームページを作ったんですよ。僕がロンドンにいて、1人がルクセンブルグにいて、2人が東京にいて、サーバーはアメリカなんです。メールとバイナリデータのやりとりで作った。1人は東京で電車の中でやっていました。その辺のことは「デジタル情報の仕事術」という次の本にまとめているところです。情報山根組のメンバーは、全員、会社員なんです。でも、会社で空いている時間とか、動きながらでも共同で1つの仕事ができる。そういうことをこの本の中でも立証していきたいんです。

☎: それを支援するのがモバイルなんですかね。

山根: そうそう。ロンドン、ルクセンブルグ、東京、アメリカをつないで仕事しちゃったみたいなの...

Internetってエンターテイメントですね。新しいメディア、今の段階ではテレビですよ。数万チャンネルの。ほとんどの人は遊んでると思うけど、それでいいと思います。そこでどういう時代が来ているのを感じてもらえれば...。いわば新しいカルチャーですよ。メール以外は仕事に直結させてる人って少ないと思います。

☎: 仕事に使えるのはメールだけですか。

山根: そう、メール。でもメールならNiftyで



ノンフィクション作家の山根氏は、電子ネットワークのプロ集団「情報山根組」を率い、世界各地からの情報発信を実践するモバイルの達人。最先端のテクノロジーをターゲットにした『メタルカラーの時代』(小学館)や取材の技術・方法論をまとめた『マルチメディア版・情報の仕事術 上・下』(日本経新聞社)の著作も、かなりの部分を移動中に執筆している。

十分。もっともNiftyだってインターネットの一部なんですから。僕のような職業では世界中、日本中、すぐにつなげて確実にメールが瞬時に送れるというのが大事なんです。最近になってCompuServeがどこからでもPPP接続できるようになったけれども、じゃあ日本中どこでもできるかというと、できないじゃないですか。市外通話をかけなければならぬ。それを考えたら、唯一の選択はNiftyなんですよ。Internetにも送れますしね。

PPP接続でホームページが見たいとか、まあそれはいいでしょう。でも、みんな先を行きすぎちゃってるんです。行きすぎるのはいいけれど、そのためにマニアにしかできないなんていうのは許されないんですよ。

☎: MacintoshのDuoもお使いですね。
山根: ホテルとかの回線状態が安定してる場所では、バイナリーで画像も送れますからね。ワープロでは、それができないのが無念。こんなこともありました。ロシアのヤコブレフ氏とシンポジウムを開いたときに、ロシアのサイトを呼び出そうとしたらロシア語のフォントで出てしまったんです

よ。これは困ったなと思って、山根組に電話してフォントをバイナリーで送ってもらったんです。プレゼンテーションのときは、NTSCのビデオ出力のできるアダプターを用意すれば大画面でのスライドショーも簡単にできるわけです。

だから、地方に行くときはトラブルが多いし重くて死にそうだけど、Duoを持っていきます。ところがあのDuo280cは液晶が割れる大欠陥がある。今、割れて2度目。同時にもう1台の270cも割れて大パニック中です。そういう不安を抱えながら仕事するのっていやなんです。だから古くても、どんなにボロボロになってもしっかり使える機械がほしいと切に思います。

☎: 山根さんのモバイル姿というと「情報山根靴」ですね。

山根: 今度、決定的なのが出ます。KaZmaブランドでこれまで2つ出しているんですが、2つとも日本の靴業界史上例のない売り上

げを誇っているんですよ。次に出すのは世界で前例のない完璧なパソコン靴なんです。☎: 将来的には、モバイル環境はどうなるとお考えですか? 来年と言わず3年後、4年後の話ですが。

山根: 紙のように折り畳めるパソコン。つまり我々が目指しているものは電子紙です。電卓がいい見本。電卓って最初すごく大きかったじゃないですか。今は太陽電池ですごく小さいでしょう。そういうふうにしてほしい。軽くて、バッテリーを気にせず、ともかく簡単に打てて、いつでもどこでもコミュニケーションできるものが必要なんです。そういうものが登場すれば仕事のスタイルも変るし、社会そのものも望ましい方向に行くと思う。忘れてならないのは、銀行でマルチメディアに縁のないおばあちゃんが、メインフレームのコンピュータを操作していることね。あれって大変なことだと思う。ユーザーインターフェイスがよくできているってことですよ。メーカーの方にはとことん簡単に使えるものを、必死に努力して作っていただきたいですね。

写真右: Niftyの岡田社長から「あんたが日本一」と言われた、世界各地のモジュラージャックコレクション



写真下: KaZma情報靴



MOBILE

SUBNOTE

モバイル用パソコン選択のポイントは携帯性（本体の大きさと重量）と操作性のバランスだ。キーボードのピッチや、マウスの代わりにポインティングデバイスも各社各様なので実際に店頭で手で触れてみるのが一番だ。内蔵バッテリーによる駆動時間と充電時間も大事になってくる。カタログスペックで特に注意しなければならないのがこの連続駆動時間の表記だ。各社での計測の環境が統一されていないことから、使用方法によってはかなりの違いが生まれることになる。また、海外へ頻繁にでかけるようならACアダプターの対応電圧もチェックしておこう。



WINBOOK SC
SOTEC (TEL.045-661-7355)
328,000円 重さ：1.8kg
バッテリー駆動時間：2時間 対応電圧：100～240V



IBM Palm Top PC110
日本IBM (TEL.0120-04-1992)
オープン価格 重さ：0.63kg
(リチウムイオン・バッテリー込み) バッテリー駆動時間：1.3～3時間 対応電圧：100V



DynaBook SSR575
東芝 (TEL.03-3457-2930)
368,000円 重さ：2.2kg
バッテリー駆動時間：2.5～5時間 対応電圧：100～240V



FMV BIBLO 475NL/T
富士通 (TEL.0120-222-015)
418,000円 重さ：2.1kg
バッテリー駆動時間：1.5～4時間

Digital HiNote Ultra 450C
日本DEC (TEL.0120-147655)
368,000円 重さ：1.8kg
バッテリー駆動時間：3時間 対応電圧：100～240V



HP OmniBook600
日本ヒューレット・パッカード (TEL.03-3335-8333)
499,000円 重さ：1.72kg
バッテリー駆動時間：3時間 対応電圧：100～240V



（モバイルに使えるサブノート最新11機種）



COMPAQ CONTURA 430CX
COMPAQ (TEL.0120-101589)
488,000円 重さ：2.84kg
バッテリー駆動時間：3～5時間



PRONOTE mini
Panasonic (TEL.0120-15-8756)
328,000円 重さ：1.29kg
バッテリー駆動時間：1.7～3.4時間



PowerBook5300
Apple (TEL.0120-61-5800)
オープン価格 重さ：2.8kg
バッテリー駆動時間：2.5～4時間

ECHOS 26C
olivetti (TEL.0120-045-393)
318,000円 重さ：2kg
バッテリー駆動時間：～4時間



PC9821/Lt2
NEC (TEL.03-3452-8000)
328,000円 重さ：2.5kg
バッテリー駆動時間：2.4～3.5時間



MOBILE

modem
isdn
lan

カード型FAXモデムも、インターネットが快適に使える28800Kbpsの製品が出回ってきた。ISDN公衆電話機も設置されてきたので、ISDN回線の利用者はISDNカード(TA)を用意しよう。出先にEthernetなどのLAN環境が整っていれば、Ethernetカードを使って高速なデータの交換もできる。中には1枚でモデムとLANカードの二役をこなす多機能カードもある。また、メモリーカードは、頻りにアクセスするデータをメモリーに蓄え、内蔵ハードディスクの使用を減らすことでバッテリーの消費を抑えるのに効果を発揮するだろう。



APIB-JDA
エイプラス (TEL.03-5281-2067)
55,000円

LinkBoy D64K
B.U.G (TEL.03-3486-6710)
59,740円 モデム感覚で使えるターミナルアダプター



Simple 288
Simple Technology (TEL.03-5306-7809 ヒューコム)
49,800円 音声録音機能もついた低価格なカードモデム

Travel Card/V.34
Microcom (TEL.03-5306-7809 ヒューコム)
68,000円 モデムをパラレルポートに直接接続できるATP技術を採用



DF2814 V.34
TDK (TEL.0120-650-660)
54,800円 省電力設計のカードモデム。



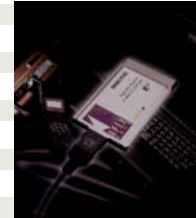
ISDNカード



MultiCard
APEX Data (TEL.045-474-9027 イノテック)
49,800円 (10BASE-T) / 54,000円 (10BASE2) LANアダプターとモデム兼用のカード



LPM-FM288
LOGITEC (TEL.03-3251-3271)
38,000円



FMobile Plus V.34
APEX Data (TEL.045-474-9027 イノテック)
54,000円 約30種の携帯電話に対応できるすぐれモノ

マルチカード

28800Kbps モデム

(インターネットにつなぐためのPCカード)

LANカード



ND5120
NDC (TEL.03-3257-0601 若松通商)
16,500円 セルフインストール機能あり

LDK-CD021
TDK (TEL.03-5201-7216)
19,800円

LPC-TS
メルコ (TEL.052-619-1827)
19,800円

トランシーバー



CentreCom MX60T
アライドテレシス (TEL.0120-860442)
6,800円 (キャンペーン価格)
AAUIから10BASE-Tに接続するための小型トランシーバー

DPF-40M
メルコ (TEL.052-619-1827)
185,000円 40Mバイトのフラッシュメモリーカード。10Mバイトタイプは64,800円



フラッシュメモリー

MOBILE

あなたのパソコンをモバイル用にチューンアップ

塩田紳二

モバイルに適したノートパソコンとカードモデムを手に入れたら、さっそくインターネットに接続するための準備をしよう。最新のWindows95とMacintoshのシステムには標準でダイヤルアップ接続用ソフトウェアが付属しており、最近ではそのシステムもたいていコンピュータにインストールされて出荷されている。あとは画面に表示されるメニューやダイアログに従って設定するだけだ。



Windows 95

Windows95のダイヤルアップネットワーク環境

Windows95のダイヤルアップネットワークは、モデムを制御する部分と、その上のプロトコル(PPPなど)が一緒になり、ネットワークカードなどと同等なアダプタードライバになっている。

このため、TCP/IPやNetBEUIなどの上位のプロトコルと、PPPやRASなどの下位のプロトコルを組み合わせて利用することができる(実際には相手側の仕様で使えない組み合わせもあるが)。下位のプロトコルとしては、CLIP/SLIP(Serial Line IP:Unixホストとの接続)、NRN(NetWare用)、PPP(Windows95、Windows NT 3.5、Internet用)、RAS(Windows for Workgroup、Windows NT 3.1)が用意されており、主要なサーバ系OSと接続が可能だ。

Windows95には、モバイル環境を想定したいくつかの機能が入っている。たとえば、リモートアクセスに利用場所の設定があることなどが挙げられる。このため、いくつかの設定項目は、設定値をいくつも持てるようになっており、発信元や接続先の環境に応じて切り替えて使うことができる。



ダイヤルアップネットワークを組み込むWindows95でモデムを使ってダイヤルアップIP接続を行うには、「ダイヤルアップアダプタ」をインストールする必要がある。まず、コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」をクリックし、「Windowsファイル」タブで「通信」を選ぶ。「詳細」ボタンを押すとリストボックスが表示されるので、「ダイヤルアップネットワーク」のチェックボックスをオンにする。もし、Windows95の動いているデスクトップ機を持っているのなら、ついでに「ケーブル接続」もインストールしておこう。

次にコントロールパネルの「ネットワーク」で、必要なプロトコルやサービスを追加する。インターネットに接続するのなら、「TCP/IPプロトコル」が必要だし、外からモデムを使ってWindows95マシンのファイルにアクセスするのなら、「NetBEUI」と「Microsoftネットワーククライアント」を入れておく(図①)。

この後でシステムを再起動すると、ネットワーク関係の設定が有効になる。

モデムの設定

次は、モデムの設定である。すでにモデムがあるのなら、接続して電源を入れておく。

コントロールパネルの「ハードウェア」でハードウェアウィザードを起動し(モデムアイコンのダイアログで追加してもよい)、モデムを組み込む(図②)。このとき、ハ

ードウェアの自動検出を使うよりもWindows95のリストから選択したほうが設定の作業時間は短くて済む。ただし、使用するモデムがリストにない場合は、自動検出を行ったほうがよい。モデムには「標準のモデムドライバ」という設定があり、リストになくとも、Windows95がモデムの能力を調べて最適の設定を行ってくれる。

所在地の設定

次にコントロールパネルの「モデム」の「ダイヤルのプロパティ」を使って所在地の設定をしておく、これには、電話をかける場所の市外局番などが必要になるので、アクセスの直前に設定してもよい。外線発信番号のボックスには、ゼロ発信が必要なとき市内・長距離とも0を入れる(図③)。

アクセスポイントの登録

ダイヤルアップネットワークの設定がうまくできれば、マイコンピュータの中に「ダイヤルアップネットワーク」のフォルダができているはずだ。このフォルダを開くと、「新しい接続」というアイコンが1つだけ入っている。登録はウィザード方式(設定に必要な項目だけを順番に問い合わせしてくれる仕組み)なので、各場面の質問に答えていくだけでよい。

モデムと電話番号を入れたら、登録は完了するので、次にプロパティ設定に移る。このプロパティ設定は、アイコンごとに個別に



記憶されるので、登録したすべてのダイヤルアップネットワークアイコンに対して行う。

プロパティでは、「設定」と「サーバーの種類」のボタンを使って詳細な設定を行う。「設定」ボタンは、モデムの設定を行うためのものだ(図④)。このモデム設定では、以下のような設定を行うとよい。

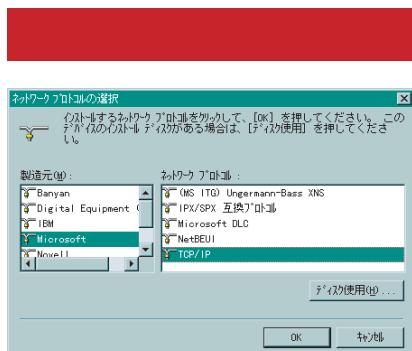
- 1: 接続タブの「トーンを待ってからダイヤルする」は、ホテルなどで0発信をするときにエラーになるので、チェックしない。
- 2: 「ダイヤル時の接続タイムアウト」は40~60秒程度にする。回線状況が悪いとネゴシエーションに時間がかかることがあるので、モバイル環境では、あまり短くしないほうがよい。
- 3: 「詳細設定」では、モデム初期化文字列を指定できる。標準の初期化文字列を変えるときなどにここで指定する。なお、

各モデムの初期化文字列は、Windows ディレクトリのINFディレクトリ(隠しディレクトリ)にある「Mdm~.inf」ファイルに記述されているので該当するモデムのものを確認しておくといよい。

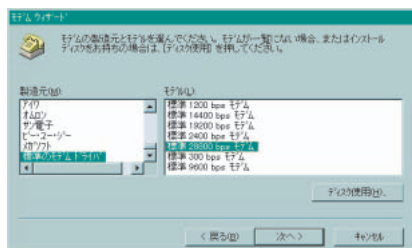
「サーバーの種類」では、PPPを選択すればほとんどの場合OKである。使用できるネットワークプロトコルは、プロバイダーに接続する場合には、TCP/IPのみにしておく。ここではまた、プロバイダーに合わせたTCP/IPの設定を行う。「TCP/IP設定」ボタンを押すと、プロパティのダイアログが表示される(図⑤)。ダイヤルアップIP接続の場合には、「サーバーが割り当てたIPアドレス」を選択して「ネームサーバーアドレスを指定」を選び、プライマリーDNSにプロバイダーのドメインネームサーバーのアドレス(10進4桁のアドレス)を設定する。

次にダイヤルアップネットワークのウィンドウにある「接続」メニューでリダイヤルの設定を行う(図⑥)。このリダイヤルの設定は、すべての登録に対して有効な項目である。リダイヤルのチェックボックスをオンにし、再試行回数を入れる。10回程度が普通だが、大きな数を入れておいても問題はない。再試行の間隔は1分とする。国内で発売されている認定モデムにはリダイヤルの発信規制が入っている(はず)なので、3分間に3回以上の発信はできない。1分でもエラーになるようなら、値を増やして試してみる。

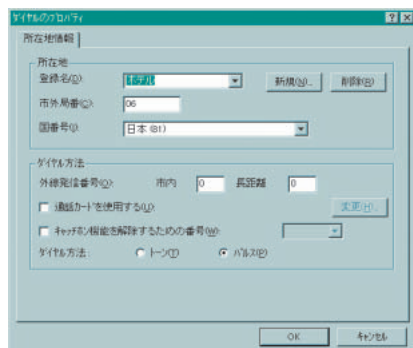
「ネットワーク接続のオプション」では、「ダイヤルアップネットワークの使用を確認する」を選択しておく。オフィスや自宅などでネットワークを使っている場合、確認しない設定だと、無条件にモデム接続を試みるので、ここは、確認するように設定しておこう。



図①: [マイコンピュータ] [コントロールパネル] [ネットワーク] [ネットワークの設定] [追加] [プロトコル] [追加]とたどってきた画面でネットワークプロトコル



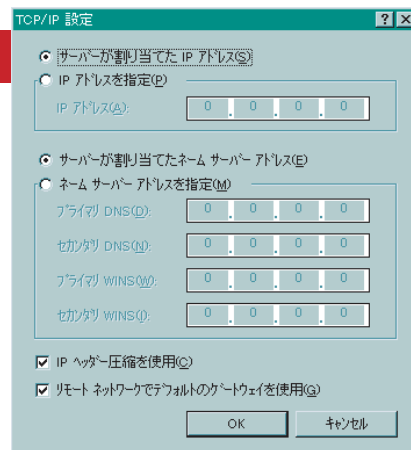
図②: [マイコンピュータ] [コントロールパネル] [ハードウェア](または[モデム]) [次へ]と選んで表示されるリストから使用するモデムを選ぶ



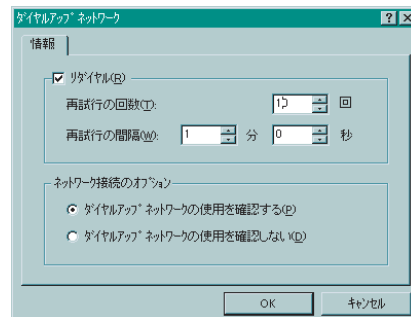
図③: [マイコンピュータ] [コントロールパネル] [モデム] [ダイヤルのプロパティ]と選んで表示される所在地



図④: [マイコンピュータ] [ダイヤルアップネットワーク]で個別のネットワークのアイコンを選んでマウスを左クリックし、「プロパティ」[設定]と選んでモデムの設定ができる



図⑤: ④で[OK]ボタンを押したあと、今度は[サーバーの種類] [TCP/IP設定]と選ぶ



図⑥: [ダイヤルアップネットワーク]をクリックして開くウィンドウの[接続]メニューから[設定]を選び、リダイヤルの設定をする



Macintosh

Macintoshでモデムを使ったインターネット接続を行うには、「MacTCP」と「MacPPP」をインストールする。モバイル環境だからといって、特別な設定が必要になるわけではないので、ここでは簡単にインストール方法と使い方について解説する。

「MacTCP」と「MacPPP」を組み込む

この2つをシステムフォルダに入れる。「MacPPP」はフリーソフトウェア。「MacTCP」は最近のSystem7.5には標準で付属しているので、システムCD-ROMからインストールできる(ただし、いずれも本誌付録のCD-ROMに収録されている)。

MacTCPの設定

「コントロールパネル」から「MacTCP」を開いて(図①)、「PPP」を選択し、「More」というボタンを押すと詳しい設定の画面(図②)に移る。ここで「Obtain Address」を「Server」にし、「Domain」にドメイン名を、「IP Address」にネームサーバーのIPアドレスを入力し、「Default」

ボタンを押せば準備完了である。

また、会社内ではLANに接続し、外に出たときにはモデムで接続と、1台のマシンを2つの環境で使いたい場合には、「MacTCP Exchanger(本誌CD-ROMに収録)」を使うと複数の設定を使い分けることができる。

MacPPPの設定

「コントロールパネル」から「ConfigPPP」を開き(図③)、「New」ボタンを押して名前をつける(適当でよい)。次に「Config」ボタンを押すと詳しい設定の画面(図④)が表示される。ここでは、回線速度、フロー制御、ダイヤルトーン、電話番号、モデム初期化コマンドをそれぞれ設定する。

次にIDとパスワードの設定だが、これはアクセスポイントがPAPと呼ばれるパスワードの認証方式を採用しているかどうかによって異なる。PAPの場合は「Authentication」というボタンを押して(図⑤)、IDとパスワードを設定するだけでよい。PAPでなければ「Connect Script」

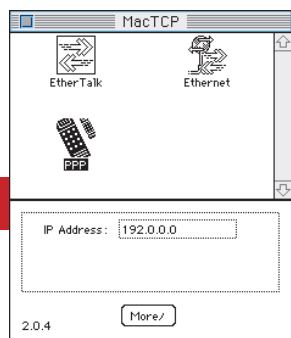
と呼ばれるホストとの応答手順を設定しなければならない。具体的には各プロバイダーの用意している資料を参照していただきたい。

モバイル環境での設定の変更点

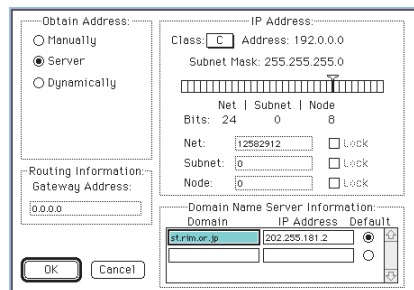
ホテルなどから外線につなぐときにゼロ発信が必要な場合は、図④の「Phone num」の電話番号の前に「0,」を入れ、「Modem init」に「ATX3」を指定する必要がある。また地方都市などではVANのアクセスポイントしかない場合が多いが、VAN経由のログインは独自の手順が必要のため、PAPは使用できない。この場合には「Authentication」ではなく、「Connect Script」により必要な手順を記述する(図⑥)。

アクセス方法

すべての設定が終わったら、コントロールパネルから「ConfigPPP」を開き、「Open」ボタンを押すとダイヤルを開始する。回線を切る場合は、「Hard Close」ボタンを押せばよい。

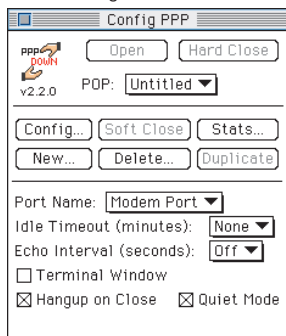


図①：コントロールパネルのMacTCPをクリックし、PPPを選んで「More」ボタンを押す

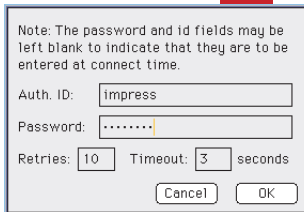


図②：MacTCPの設定画面

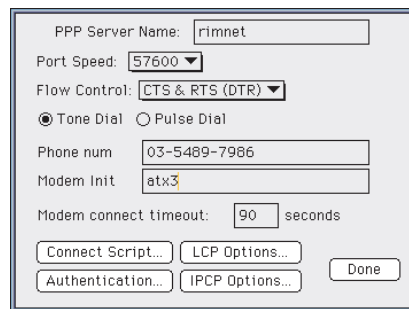
図③：ConfigPPPを開く



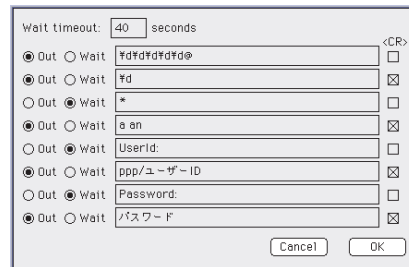
図⑤：PAP方式の場合は設定が簡単



図④：ConfigPPPの詳しい設定を行う



図⑥：PAPが使えない場合Connect Scriptを記述



MOBILE モバイル必携ソフトウェア



以前のノートパソコンではハードウェアの制約から、インストールするソフトウェアはできるだけメモリー消費が少なく軽快に動くものをインストールするのが常識だった。しかし、最近ではデスクトップ機並みにパワーアップして、たいていのソフトは問題なく動作するようになってきた。自分のニーズに合った最適の環境をどこにでも持ち歩けるようになったのである。ここではモバイルインターネットで用意しておきたいソフトウェアをいくつか紹介しよう。(* 印は本誌付録 CD-ROM に収録)

コミュニケーションツール

電子メールソフト: モバイルコンピューティングの基本ツール	
Windows	「Eudora Pro」(9,800円・誠和システムズ tel. 03-5378-2831) は MIME、SMTP、POP3 などのプロトコルをサポートする。メールボックスを階層構造にして作成する機能やメールの自動振り分けの機能を持つ。なお、フリーウェアやシェアウェアのソフトに「電信八号」、「Message Manager」、「AL-Mail」、「WeMail」、「Winbiff」* などがある。
Macintosh	人気の高いフリーウェア Eudora-J* を製品化したのが Macintosh 版「Eudora Pro」(9,800円・誠和システムズ tel. 03-5378-2831)。その機能は Windows 版と同じ。
FAXソフト: 一般のFAX送受信のほか、モバイルでプリントアウトをしたいときは近くのファクシミリをプリンター代わりに使える	
Windows	STARFAX (15,000円・メガソフト tel. 06-386-2043) や EasyFax (19,800円・イー・アイ・ソフト tel. 03-3376-5053) は昔から定評あるソフトで、最新版ではファクスを文字データに変換する OCR 機能もついている。「まいと〜くFAX」(14,000円・インターソフト tel. 03-3842-6022) は操作がわかりやすいインターフェイスを備える。
Macintosh	FAXstf (STF Technologies Inc. 日本語版 6,000円前後) は Macintosh の定番といってもよい FAX ソフト。モデムを購入すると付属して行くこともある。
テレビ電話ソフト: インターネットでは CU-SeeMe の登場で気軽にリアルタイムの画像が送れるようになった	
Windows / Macintosh	コーネル大学の開発した CU-SeeMe* のクライアントアプリケーションは、本誌付録 CD-ROM に収録。

データの送受信と共有のためのソフトウェア

パソコン通信ソフト: インターネットが使えない場合のバックアップの連絡手段としても用意しておきたい	
Windows	WTERM (フリーウェア)、秀 TERM (シェアウェア 5,000円)、CCTV (20,000円・技術評論社 tel. 03-3225-3281) など、パソコン通信で定評のあるソフトを利用するとよい。また、大手 BBS では専用の接続ソフトウェア・ナビゲーターを無料で配布していることもある。
Macintosh	汎用通信ソフトの Jterm (9,800円・まつもと tel. 0462-61-0070) はテキストベースのユーザーインターフェイスで動作が非常に高速。フリーウェアの CASTERM も定評がある。
TELNET(リモートログイン): 遠隔地のコンピュータを手元で操作する	
Windows / Macintosh	「NCSA Telnet」* が利用できる。なお、Windows 用には「Tera Term」*、Windows NT 用には「秀 Term32 for Windows NT」* もある。
リモートアクセス: 遠隔地のコンピュータ同士でファイルを共有する	
Windows	RAS (Remote Access Service) のクライアント機能は Windows95 に「ダイヤルアップネットワーク」という名前で作載されており、2台以上のマシンで資源を共有できる。
Macintosh	Apple 純正のソフトウェア ARA (Apple Remote Access) は公衆回線を使って AppleTalk ネットワークに接続するソフト。(クライアント: 9,800円 / サーバー: 30,000円・アップルカスタマーアシスタンスセンター tel. 0120-61-5800)

インターネットアプリケーション

Windows / Macintosh	WWW、Gopher、FTP、NetNews 専用のツールはすべて本誌付録の CD-ROM で揃えることができる。すべてを個別にインストールするのが面倒な場合やサポートが必要な場合は主なツールをセットにした Internet CHAMELEON (19,800円・ネットマネージング tel. 03-3221-8400) や INTERNET IN A BOX (19,800円・トランスコスモス tel. 03-3584-2958) などのパッケージ製品もある。なお、事実上の業界標準 WWW ブラウザーとなっている Netscape Navigator の最新バージョンはメール送受信の機能も持つ。その評価版がネットスケープのホームページ (http://home.netscape.com/) からダウンロード可能。
----------------------------	---

目的によって必要なアプリケーション・その他

ワープロ・エディター	Windows : ワープロは普段使っているものが一番。ただし、Windows 標準の「ライト」や軽快に動く「秀丸」などのエディターもおすすめ。 Macintosh : PowerBook でも快適に使えるものは「EGWORD PURE」(エルゴソフト・12,800円 tel. 03-5467-8871) や「YooEdit」、「Edit7」などのエディター。
アーカイバー	Windows : 本誌付録 CD に収録のソフトウェアでほとんどのファイル圧縮形式に対応できる。 Macintosh : 本誌付録 CD に収録のものを利用。製品を購入するなら「Stuffit Deluxe」(19,800円・ウィニングラン・ソフトウェア tel. 03-3372-8441) がおすすめ。
個人情報管理(PIM)	Windows : ロータススーパーオフィスに含まれる「Lotus オーガナイザー」(14,800円・ロータス tel. 03-5496-3111) は多機能なパソコン版システム手帳でネットワークにも対応。「Boland Sidekick」(14,800円・データコントロールリミテッド・tel. 03-5350-9380) は個人用のスケジュール・データ管理ソフト。 Macintosh : 「ナウアップ・トゥ・ノート」(19,800円・誠和システムズ tel. 03-5378-2831) はネットワーク上での使用に特化したスケジューラー。ARRANGE (49,800円・誠和システムズ) や PerMan Note (5,150円・ピー・ユー・ジー tel. 03-3486-6710) はデータベース型の情報管理ソフトウェア。
プレゼンテーション	Windows / Macintosh : 「パワーポイント」(Windows 版 20,000円 / Macintosh 版 58,000円・マイクロソフト tel. 03-5454-2300) は、スライドや OHP などのプレゼンテーション資料作成ツール。パソコンを使ったオンラインプレゼンテーションが可能になる。
画像処理	Windows : Paint Shop Pro (14,800円・パーソナルデータファクトリー tel. 0270-21-1423) は 34 種類の画像フォーマットに対応。ファイルコンバーターとしても便利。 Macintosh : マックドロー Pro (59,000円・クラリス fax. 03-5210-9022) は昔からの定番ソフト。
ディスク修復ソフト	Windows / Macintosh : モバイルコンピューティングでも突然パソコンが不調になることがある。そんなときディスク修復ソフトウェアの定番「Norton Utilities」(Windows 版 19,800円・シマンテック tel. 03-3498-0550 / Macintosh 版 19,800円・システムソフト tel. 092-752-5264) が役に立つ。
地図ソフト	Windows / Macintosh : 外出先の道案内もパソコンがしてくれる。「駅ずばあと < 全国版 >」(29,800円・ヴァル研究所 tel. 03-5373-3511) は目的地までの経路をいくつかのボタンで自動的に表示してくれる。安価な首都圏版もある (12,800円)。
翻訳ソフト	Windows : 「英日翻訳アダプタ for Internet」(14,800円・NEC tel. 03-3456-8343) はどのようなアプリケーション上でも利用可能。電子辞書としても重宝する。 Macintosh : 「The Translator-Mini」(14,800円・カテナ tel. 0423-38-1118) は PowerMac にもネイティブ対応した低価格翻訳ソフト。

MOBILE

cellular

PHS

いつでもどこでもインターネットを使いたいという要望に応えてくれるのが携帯電話とPHSだ。ここではそれぞれの最新機種を選んでみた。携帯電話とPHSのどちらにすればよいかの議論は、この後の「携帯 vs PHS」(p.144)に譲るが、本体を選ぶときの第一のポイントはどちらの場合も重さと大きさだ。これは電池の容量とも関係するので、小さくて軽ければいいというものでもない。通話時間の多い人は大型のバッテリーが使える、いざというときのために乾電池でも使える機種を選ぶといいだろう。

デジタル・ムーバN III Hyper
NTTドコモ (TEL.0120-177-360)
59,000円 (本体 / 標準キット11,000円)
連続通話時間: 約120分
連続待受時間: 約100時間
W50 x H143 x D30 (mm)
重さ: 約230g



TH351
ツーカーセラーグループ
TEL.0120-020-020
(ツーカーセラー東京)
53,000円 (本体 / 付属品セット
12,000円)
連続通話時間: 約100分
連続待受時間: 約130時間
W46 x H145 x D22 (mm)
重さ: 約160g

デジタルデータ / FAXカード9600
NTTドコモ
(TEL.0120-177-360)
59,000円
最高速度9600bps全二重通信が可能。
MNPクラス10に対応し、9600bpsで通信
が可能なドコモ専用アダプター



デジタルミニモD307
日本移動通信(IDO)
TEL.0120-110-160
12月上旬発売予定



DP-172
デジタルホンネットワーク
TEL.0120-555-157 (東京デジタルホン)
58,000円 (標準セット携帯電話機 + 付属品キット)
連続通話時間: 約100分
連続待受時間: 約130時間 W46 x H145 x D28 (mm)
重さ: 約160g



(携帯電話・パーソナル



PH-100
カシオ計算機
TEL.03-3347-4811(カシオ計算機代表)
0120-773-050(DDIポケット電話グループ)
54,000円(標準セット)
連続通話時間:約3.5時間
連続待受時間:約100時間
W55 x H153.5 x D27.5 (mm)
重さ:約190G
電池駆動:可(単4 x 3)
特徴: -PHS



DL-S20P
東芝
TEL.0120-104886
(ハロー東芝お買物ご相談センター)
0120-773-050
(DDIポケット電話グループ)
45,000円(標準セット)
連続通話時間:約5時間
連続待受時間:約130時間
W55 x H150 x D22 (mm)
重さ:約215g
特徴: -PHS

PS-501
京セラ
TEL.通信機器事業本部
03-3797-3743(東京営業所)
06-397-6072(大阪営業所)
011-222-4851(札幌営業所)
022-223-7222(東北営業所)
052-962-7725(名古屋営業所)
082-227-6310(広島営業所)
092-481-6538(九州営業所)
49,800円(標準セット)
連続通話時間:約5時間
連続待受時間:約200時間
W54 x H136 x G25 (mm)
重さ:約145g
電池駆動:可(単5 x 3)
特徴: -PHS



ISD-P7
ケンウッド
問い合わせ:03-3477-5331
(ケンウッドお客様ご相談室)
0120-773-050
(DDIポケット電話グループ)
55,000円(標準セット)
連続通話時間:約4時間
連続待受時間:約70時間
W57 x H134 x D30 (mm)
重さ:約200g
電池駆動:可(単4 x 3)
特徴: -PHS



ハンディホン(PHS)を使おう)



PALDIO 101P
NTT パーソナル
TEL.0120-898956
(NTT パーソナル中央)
49,900円(標準セット)
連続通話時間:約4時間
連続待受時間:約95時間
W45 x H144 x G22 (mm)
重さ:約115g



A131
アステル
(TEL.0120-050-017)
47,800円(標準セット)
連続通話時間:約4時間
連続待受時間:約100時間
W45 x H144 x D22 (mm)
重さ:約115g

PT-H50
アイワ
TEL.03-3371-7981(お客様ご相談センター)
56,000円(標準セット)
連続通話時間:約2.5時間
連続待受時間:約50時間
W47 x H111 x D31 (mm)
重さ:約155g
特徴: PHS



* -PHS: DDIポケット電話グループとメーカー各社が共同で開発した高性能PHS規格



携帯電話 VS PHS モバイルインターネットでの使い勝手

清成啓次

インターネットを含むマルチメディア通信のツールとして、いま注目されているのが価格競争の進む携帯電話と、より安価に利用できるPHS (Personal Handyphone System)だ。この2つのツールにはそれぞれメリットとデメリットがあり、インターネットへ接続する手順も異なっている。それぞれの特徴をよく知ったうえで購入、利用してほしい。



1995年7月のPHS開業以来、その安い設定価格が受け、日本の一般の人々にもようやく移動体通信そのものの快適さが認識されるようになってきた。すでにアメリカやヨーロッパ、そしてアジアの先進国では日本より遥かに移動体通信が発達しており、音声通話だけでなく、コンピュータやPDAを利用したデータ通信の分野でも非常に多くのアプリケーションを利用できる環境になっている。

筆者はNIFTY-Serveの「モデム&移動体通信フォーラム」および「移動体通信ベンダーステーション」を主宰しているが、数年前には「移動体通信」という言葉自体が珍しく、フォーラム参加者も少なかったが、携帯電話の売り切り制度スタートを契機に参加者も増え始め、今回のPHSサービスのスタートで、「移動体通信」という言葉の本来の意味が広く受け入れられ始めたことを感じている。

人間そのものが常に動く「移動体」である限り、将来の通信は移動体通信こそが本流であり、来世紀には音声、データ、画像、動画など、あらゆる情報交換が移動体通信によって可能になるだろう。それは遠い先の話として、楽しみにしておくが、本稿では現在、市販されている携帯電話とPHSを比較しながら、インターネットやパソコン通信などのデータ通信の具体的な方法を紹介することにする。

携帯電話とPHS、どう違う

本誌読者の方々の中で、携帯電話とPHSの両方を所有している方はどれくらいいるだろうか？ 筆者の周りの友人の多くは携帯電話とPHSの両方を持っており、ほとんどが携帯電話とPHSのハイブリッド機の登場を待ち望んでいる。

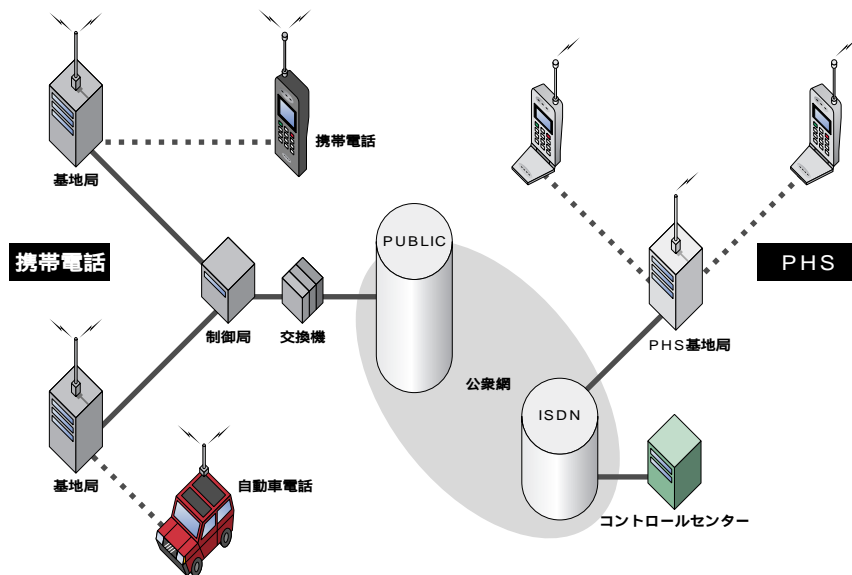
この事実は携帯電話とPHSが明らかに利用目的が異なるものとして存在することの証明であり、昨今のトレンド雑誌の特集に見られるような「PHS=簡易携帯電話」というような紹介とはかなり異なる現実の姿である。

個人的な意見を言わせてもらうと、音声通話にしても、データ通信に使うとしても、自分の行動範囲での利用を確実にカバーし

ようとするなら、しばらくは携帯電話とPHSの両方を持つことをお勧めする。まだ携帯電話とPHSとの間で通信は制度的に許可されていないし、それぞれの特徴とカバーエリアが異なる以上、両方を工夫して使い分けするのが効果的だと思うからである(図①)。

以下、携帯電話とPHSの違いを表にしてみたので(表①)、この表を見ながら携帯電話とPHSの使用目的の違いや、インターネットやNIFTY-Serveなどへのアクセス料金などを説明したい。なお、この表は筆者の主観でまとめたものであり、数字も非常に大ざっぱな把握であり、誤解を与える部分もあると思うが参考までに記載する。

図①：携帯電話網とPHS網の違い



携帯電話とPHSで データ通信するうえでの留意点

あたりまえのことだが、携帯電話やPHSからデータ通信する場合、十分な電波強度を確保するのが絶対条件である。電波が到達しなければ、移動体通信そのものが成立しない。また、個人で利用する場合は通話料金にも気を配る必要があり、この点でも携帯電話とPHSの比較が必要になる。

アナログ携帯電話の場合

最近では電波の有効利用やデータ通信対応という点で、携帯電話もデジタルが主流になりつつある。しかし、アナログ携帯電話の持つメリットもまだまだ大きく、その使用エリアの広さや、デジタルに比べて微弱電波エリアでも「粘る特性」などのメリットは大きい。アナログ携帯電話の場合はデジタル(モデム)通信カードが使えないので、データ通信を行う場合、携帯電話のイヤホン端子に市販の「携帯電話接続通信ケーブル」を接続して「音」を取り出し、それをモデムに送り込んでデータ通信することになる。電波状況が良い場合でも2400bpsあたりが無難なので、パソコン通信では使えるもののインターネットに接続するには気が遠くなる。また、この場合、オートダイヤルなどは原理的に不可であり、接続にはかなりの慣れが必要となる。

デジタル携帯電話の場合

デジタル携帯電話の場合はNTT DoCoMoなどの事業者が発売している「デジタル通信カード」などを利用するのが最も便利である。この場合は9600bpsでアクセスできるし、オートダイヤルも可能なので、Trumpet Winsockなどのスクリプトも書き換える必要がなく、かなり快適に利用できる。

PHSの場合

PHSはその仕様からもわかるように、デ

ータ通信での利用も非常に重要視して開発されている。ただし、現在のPHS電話機はまだ本格的なデータ通信には対応しておらず、アナログ携帯電話と同じように、ゲリラ的にイヤホン端子に「携帯電話接続ケーブル」をつないでデータ通信を行う。PHS登場以前の情報では「電波状況の良い状態で2400bpsが限度」と言われていたが、実際には14400bpsでも通信は可能である。

PHSの最大のメリットは携帯電話とは比較にならない利用料金の安さである。公衆電話とほぼ同じ料金で利用できるので、インターネットに接続しても料金的にはそれほど苦にならない。NIFTY-ServeでもROAD3(9600bps)あたりは安定して利用できるので、筆者なども外からのアクセスはもっぱらPHSを利用している。



*ハンドオーバー：移動中に電話を中断することなく1つの公衆基地局から別の公衆基地局へ自動的に切り替える機能

	携帯電話	PHS
周波数帯	800MHz,1.5GHz	1.9Ghz
端末出力	600m ~ 1000mW程度	10mW程度
基地局エリア半径	1.5km ~ 数km	100m ~ 500m
ハンドオーバー*	満足できるレベル	原理的に満足できるレベル不可
使用可能エリア	日本の都市部ほぼ全域	都市内電波到達域のみ
室内での利用	ほぼ確実	ほぼ不可
地下での利用	現状では不可多し	可能(現在整備中)
通話音質	クリアー	非常にクリアー
疑似トランシーバ機能	なし	あり(親機での設定が必要)
移動通信可能速度	時速100km以上でも可	歩行速度~約20kmで可
端末外観	小型軽量	超小型超軽量
連続通話時間	約1時間~2時間	約3時間~5時間
連続待ち受け時間	約30時間~150時間	約100時間~300時間
基本料金	約4500円~7500円	約2700円
基本通話料(100秒)	約100円	約30円
データ通信対応速度	9600bps(現在)	9600bps(現在), 32Kbps(将来)
データ通信対応	デジタルカード(現在)	モデム接続ケーブル(現在)

デジタル携帯電話と ノートパソコンの接続 & 設定法

では、実際にデジタル携帯電話を使ってノートPCからインターネットに接続してみる(図②)。アナログ携帯電話の場合の接続はPHSについては同じなので、PHSでの接続を参考にしてください。

デジタル携帯電話からインターネットにアクセスするのはとても簡単である。ここではNTT DoCoMo HYPER機と「デジタルデータ/FAXカード」を使うが、アナログ携帯電話や現在のPHSの場合と違ってオートダイヤルが可能なので、TrumpetなどのWinsockのログインスクリプトを特に変更しなくてもアクセスはできる。

あえて注意すべき点を挙げると、デフォルトでは[ATX4]になっているモデムの状態を[ATX3]に変えておくということである(通信ソフトからATX3と入力し、AT&Wでモデムのメモリーに書き込めばOK)。こうすればダイヤルのタイミングが遅れても、相手のモデムとの接続タイミングを十分に確保できる。もちろん[ATX4]の状態の問題なければそのまま構わない。

PHSとノートパソコンの接続 & 設定法

今回使用したPHSは[ASTEEL A131]という松下製のPHSである。

PHSとアナログ携帯電話からのアクセスの場合はデジタル携帯電話のようにオートダイヤルが不可能なので、少し工夫が必要だ(図③)。

両方とも電話機のイヤホンマイク端子に「携帯電話接続通信ケーブル」を接続し、Trumpet Winsockからダイヤルするタイミングを見計らって、手でプロバイダーのアクセス番号をダイヤルするのである。

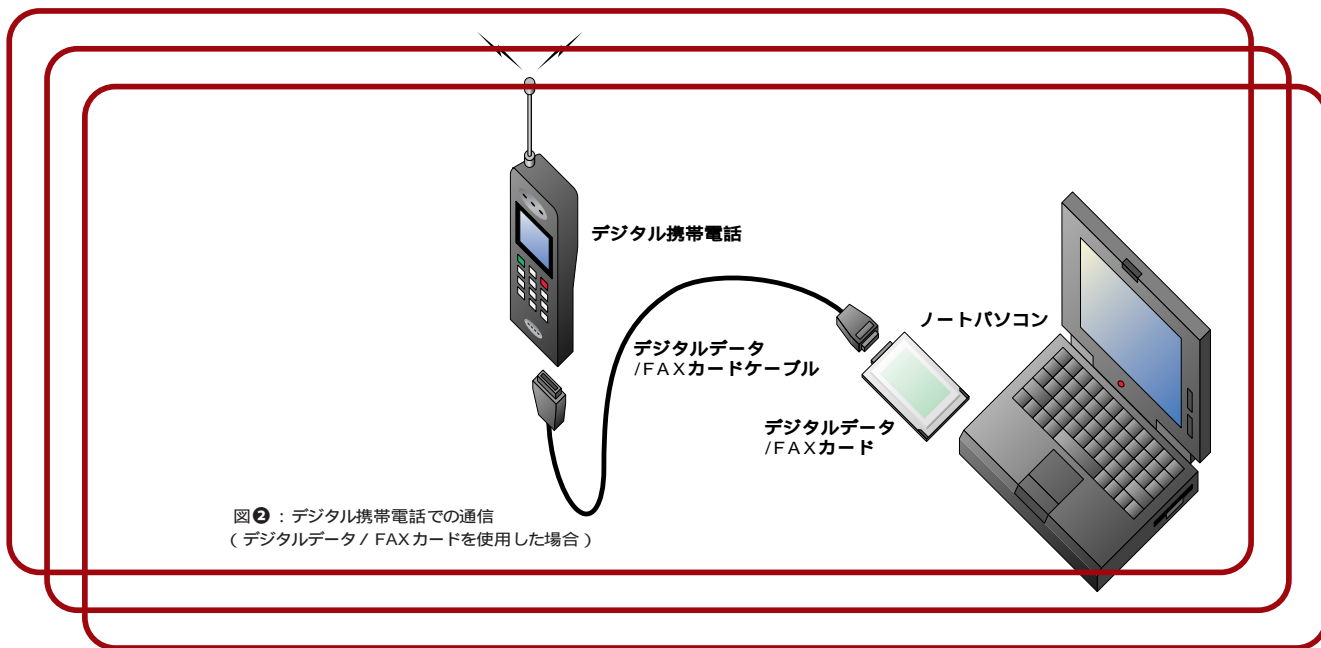
Trumpetからはモデムへダイヤルするが、PHSはそれを受け付けないので、手でダイヤルしてやるわけである。この場合も、事前にモデムに対して[ATX3]を入れておいたほうがよいだろう。

今回、筆者はメガソフトの[STARFAX CARD1414]と、それとペアを使うための同社の[アナログ携帯電話接続ケーブルSF0-5](6,900円)を使ったが、カードモデムからダイレクトに[A131]に接続できるので、見かけもとてもスッキリする。PHSからイ

ンターネットの28800bps対応のアクセスポイントに接続しようとして、カードモデムを28800bps対応にしてもPHSのイヤホンマイク端子が9600bps程度しかサポートできないので(おそらく、PHSメーカーは9600bpsでも保証しないはずである)、14400bpsのFAXモデムカードあたりの製品を使うのが妥当だと思う。

繰り返すが、PHSからアクセスする場合、最も注意するのは手でダイヤルするタイミングである。Trumpetのログインスクリプトがダイヤルするのと同じくらいのタイミングで手でPHSからダイヤルすれば、問題なくログインできる。必要があれば、PPPの設定でモデムとノートPCの接続速度を9600bps程度に固定しておいてもいいだろう。

なお、PHSからインターネットやNIFTY-Serveにアクセスする場合、気をつけたいのは「携帯電話接続通信ケーブル」の選定である。これが特性的にPHSとモデムに合わないと、アクセス不良となる確率は大きい。筆者の個人的な環境でテストしたデータだと、インテグランのMEGAHERTZ[XJ2144]と同社のセルラーケーブル、メガ



ソフトの[STARFAX CARD 1414]と同社の専用セルラーケーブル[SFO-5]での組み合わせが良い結果を示した。

今後の移動体データ通信

以上、非常に簡単ではあるが、携帯電話とPHSの大ざっぱな違いと、インターネットへのアクセス方法を述べた。会社などで通信費を気にせずにデータ通信ができるなら、デジタル携帯電話と「デジタルデータ/FAXカード」の組み合わせが最も簡単で使用エリアも広くて便利だろう。

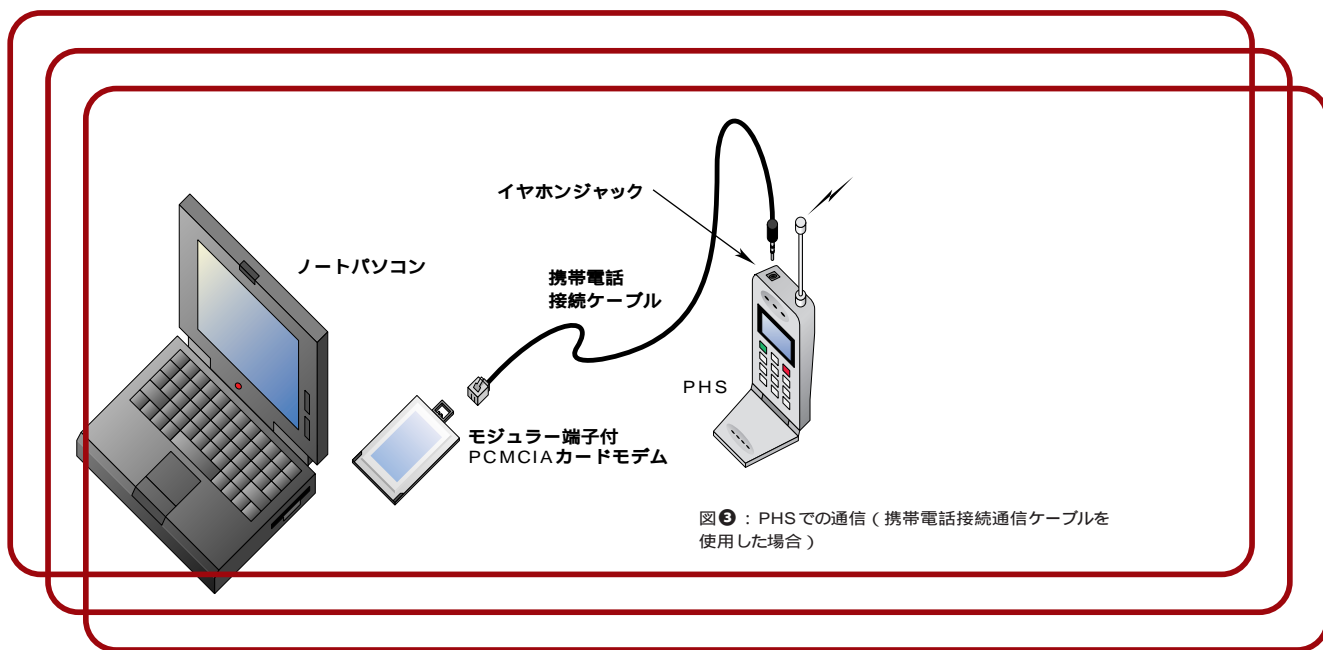
逆に個人で通信料を気にしながらインターネットやパソコン通信にアクセスするのならなんといってもPHSである。利用料金の安さは何よりも優先される。ただし、PHSの場合はビルなどの屋内ではほとんど使用不能であるし、外からのアクセスにしても虫食的に電波が届かないところが多数あり、電波状況はかなりシビアである。

今後はPHSの基地局が増えて都市部のほとんどをカバーできるようになることと、デジタルデータ通信対応のPHS機の市販が開始されれば、PHSが非常に有利になるだ

ろう。そのころになれば、PHS電話機そのものをPDA内にドッキングできる製品や、PHS機そのものをPDAやノートPCに埋め込んだ製品も登場すると予想される。

もし、読者の中で移動体通信について、もっと詳しく知りたい...と思われる方がいらっしゃったら、NIFTY-ServeでGO FMODEM、もしくはGO SMTELVAと入力していただきたい。筆者など足下にも及ばないレベルの専門家の方々から毎日のように貴重な情報が寄せられており、その時点で最新の情報がある。

清成啓次 NIFTY-Serve
 モデム&移動体通信フォーラム：FMODEM SYSOP
 移動体通信ベンダーステーション：SMTELVA SYSOP



図③：PHSでの通信（携帯電話接続通信ケーブルを使用した場合）

MOBILE

「個人放送局」を実現するモバイルコンピューティング

神田敏晶 (かんだとしあき)



Kanda News Network
<http://www.meshnet.or.jp/ibn/knn/>



写真上：パーキングメーターの上も臨時の発信基地になる。「でも、PHSをPowerBookに固定できるアクセサリーがほしい」
 写真下：喫茶店の窓際の席はモバイルの指定席

ビデオジャーナリストとして活躍中の神田氏は、現在QuickTime Conferenceを使ってインターネット上で発信する「世界で一番小さなデジタル放送局」を始めている。取材に講演に情報発信にと、まさに東奔西走の毎日を送っている。つい最近も東京・南青山のオウム総本部前からPHSとPowerBookでインターネット放送をしたらさっそく職務質問を受けたとか...

☎：モバイル通信に使っている機材を見せていただけますか。

神田：私が使っているPowerBook 540Cはカラー表示ができることと、特にイーサネットが標準でついていることで使っています。取材してQuickTimeで作った映像を企業に持っていき、プレゼンテーションのためにイーサネット経由で転送したりすることが多いですから。それでネットワーク環境があるところにはいつも10Base-Tのトランシーバーも持っていきます。

ビデオカメラはSHARPの液晶ビューカムを愛用していますが、これはインタビューする相手と目を合わせながら話を聞けるとい点がいいですね。スチルカメラはAppleのQuickTake 150と一眼レフカメラのEOS-5を持ち歩いています。

日帰り出張ではショルダーバッグが2、3個で済みますが、長期取材になるとカートを使います。それで肩こりが治らないんですが(笑)

☎：PHSをお使いですね。

神田：携帯電話で通信するのは確かに便利ですが、お金がかかりすぎますよね。PICTファイル1枚送るのに携帯電話を20分もつ

神田：でも好きでやっている個人のほうが時間も寝食も忘れて、経済性も無視して番組を作れるでしょう？ それに、これはいわゆるニッチビジネスですね。ここに大手が参入してこようとしても成り立たないと思いますよ。

普通のビデオジャーナリストというと放送局のダウンサイジングでしかないわけです。そうではなくて、個人がパソコンやインターネットのような情報発信の武器を持って言いたいことを言い、放送局より面白いことをやれば逆に大きなスポンサーだつてついてくるかもしれませんよね。

☎：今のインターネットのモバイル環境についてどう思いますか？

神田：ビデオジャーナリストの立場からすると、インターネットはまだモールス信号レベル、と言って悪ければマルチメディアのプロログなんです。早くテレビ並みのコミュニケーションツールになってくれることを期待しています。

私はモバイル環境でのインターネットへの接続も動でやっているようなところがありますし、OSレベルの話にはまったく興味はありません。OSを意識しないで自分のやりたいことがエラーなしにコンフリクトを起こさずに動いてくれればいいんです。ですから私はコンピュータもあまり知らないし、ビデオのプロでもないのですが、ただ情報を扱うプロにはなりたいとは思っています。私にできるなら誰でもできますよというのが、モバイルコンピューティングに興味をお持ちの人への私からのメッセージだと言えるでしょう。

ないで途中でダウンしたら腹が立つし、ISDNの公衆電話を使っていたら後で待っている人が気になったりしますから。PHS(Panasonic A131)はつながられば電波が安定していますし、とにかく安いので今はこれしか使ってません。ただ、MacPPPを立ち上げてダイヤルするタイミングが難しくて最初の頃はとまどいましたけど。

☎：移動中によく使うソフトウェアは？

神田：メールソフトはホテルの部屋に入ってから使います。外ではKanda News Networkのホームページを上げているサーバーにデータを送るのにファイル転送用のFetchをよく使います。Netscapeはその後の確認用として使うだけです。イベントなどでは会場のブースから画像のデータを送って、ホームページで瞬時にその情報を発信することができます。

☎：個人ですべてをやるのは大変ですね。

MOBILE

bag

モバイルコンピューティングではパソコン本体や周辺機器、各種コード類を持って移動するので、これらをうまく整理し、いつでも取り出せるようにしておくことが大事だ。コンピュータを持ち運ぶなどということがあまり考えられなかった頃は、キャリーバッグの種類も少なく、個人の創意工夫でなんとか「運搬」していた。しかし、ノートパソコンの小型化とともに最近ではキャリーバッグの種類や機能も豊富になってきた。ここではそうした製品をいくつか紹介しよう。



ノートブックウェットスーツ2.0

日本ポラロイド
(製造: SILICON SPORTS)
TEL.03-3438-8887

5,700円 型名: ブラック42021・パーガンディ42022・ロイヤルブルー42023・パープル42027 W271-290 x D197-216 x H4.2-6.4 (mm) ショックを吸収し、汚れや傷にも強い、耐久性に優れたナイロン素材のノートブックタイプコンピュータ・キャリングケース。ストラップは取り外し可能



ノートブックバックパック

日本ポラロイド(製造元: SILICON SPORTS)
TEL.03-3438-8887

5,900円 型名: ブラック41001・パーガンディ41002・ロイヤルブルー41003 内寸 W320 x D418 (mm) / 外寸 W344 x D443 (mm) 抗水性、耐久性に優れたナイロン素材を使用したバックパック。内部の仕切りは取り外し可能。アクセサリ用内部ポケット付き



キャリングバッグA4 サンワサプライ

TEL.086-223-3311
17,800円 内寸 W400 x D75 x H285 (mm) / 外寸 W435 x D95 x H390 (mm)
重さ: 約2.2kg 表装: スパンフォーム(ウレタン合皮)
中身はABS樹脂製ボディ)
ノートPCをアタッチケースに入れたまま操作できる



ノートキャリー サンワサプライ

TEL.086-223-3311
8,800円 内寸 W420 x D60 x H300 (mm)・外寸 W445 x D150 x H330 (mm) 重さ: 約1.4Kg 表装: ポリエステル600dn(撥水加工) 手に持ったり肩にかけたりできるほか、背負うこともできる3WAYタイプ



ノートブックトラベラー (デラックス)

日本ポラロイド
(製造: KENSINGTON)
TEL.03-3438-8887

3,800円 型名: 64072
W400 x D300 x H80 (mm)
特別に設計されており、キズやホコリなどからコンピュータを守る。A4サイズの外側ポケットが1つついている。



キャリングNOTE サンワサプライ

TEL.086-223-3311
4,980円 内寸 W330 x D52 x H265 (mm)・外寸 W345 x D62 x H280 (mm)
重さ: 約750g 表装: EVAフォーム(ウレタン合皮) A4ノート本体のみまたはB5サブノート+ACアダプター収納可



ポータブルラップトップシステムケース サンワサプライ(製造元: サムソナイト社)

TEL.086-223-3311
12,000円 外寸 W340 x D145 x H305 (mm)・本体収納部 W330 x D70 x H295 (mm)・アクセサリ収納部 W330 x D55 x H295 (mm)・前ポケット W180 x D150 x H330 (mm) 重さ: 約1.5kg
表装: P.V.C. サムソナイト社製のB5サブノート+小型プリンター用ケース



(情報の整理はモノの整理から)

MOBILE

etc.

ここで紹介するのはモバイルコンピューティング用の小物というよりも、便利なのでモバイルにも使ってしまうという観点からピックアップした製品群だ。モバイルのベテランになると変換コネクタなどは自分で作ってしまうこともあるようだ。

小型のドライバー

1本 190円
何かと便利なドライバーセット。最近では飛行機の機内に持ち込めないこともあるので注意

SLimPackBattery (スリムパックバッテリー)

BATTERY TECHNOLOGY, INC.
サンワサプライ
29,800円 対応機種：
PowerBook100・140・145・145B・150・160・165C・170・180・180C W284×D163×H14.5 (mm) セット内容：スリムパックバッテリー・電源ケーブル2本・マジックテープ・PowerBookユーティリティソフト「CPU2.0」英語版、日本語取扱説明書 MacintoshのPowerBook用外部バッテリーパック。輸入品

RJ-11ケーブル

サンワサプライ
1,450円 W55×D86×H11 (mm) ケーブル：RJ11 (4極4芯) コネクタ 2.4m 両端に4極4芯のモジュラーコネクタがついたケーブル。使用しないときはケーブルを巻きとってコンパクトに収納できる (PCMCIAカードと同じサイズ)

ノートバイザー

サンワサプライ
1,600円 対応機種：PC9801NS/E・NS・NV・N、EPSON PC-286NOTE F386NOTE W、東芝ダイナブックJ-3100シリーズJ-3100SS、IBM PS-55note他 (ディスプレイ幅が245mm以下の機種) オフィスで電灯の映り込みを防いだり、プライバシーを保護することを目的とした製品だが、晴れた日の屋外でも役に立ちそうな一品

モジュラーケーブル延長コネクタ

330円 モジュラーケーブルを2本つないで延長したい場合などに使う。2線式と4線式のアダプターを兼ねたものもある

スーパートランス

株式会社忠利 (製造元: マグナス電子工業株式会社)
6,700円 型名: MCT-50W 入力電圧: 110~130/200~240V (50/60Hz) 出力電圧: 100V ± 10% (50/60Hz) 容量: 50W (50VA) W62×D107×H37 (mm) 重さ: 約380g 使われている電圧が異なる国で、日本国内仕様の電化製品を使うときに必要な電圧変換器。ワールドタイプの自動切り替え装置や自動復旧タイプのマイクロプロテクター、通電表示ランプなどを装備

モバイルパワー (12V バッテリー車専用DC/ACアダプタ)

サンワサプライ
15,800円 型名: TAP-AD12V 入力電圧: DC12V 入力電流: 最大12.2A 出力電圧: AC112~114V 出力容量: 140W 出力周波数: 60 ± 1Hz W66×D154×H41 (mm) 重さ: 432g ケーブル: 378 (mm) 車のシガレットケースからノートパソコンに電源を供給

PCMCIA カードケース

サンワサプライ
880円 W82×D123×H21 (mm) 塵や埃からカードを守るPCMCIAカード用のケース。内部のラポートレイが衝撃を和らげてくれる

その他街でみつけたアイデア Goods
ポータブルパソコンライト

ノートパソコンに取り付けて液晶画面を照らし出すライト。本体のバックライトの輝度を落とせるので、バッテリーの駆動時間を延ばすことができる。



ISDN 公衆電話網からインターネットにアクセス

服部倉吉

最近街頭でよく見かけるようになったのがISDN 公衆電話。でも大多数の人はただの電話としてしか利用していないのはもったいない話だ。このISDN 公衆電話を使ってインターネットにアクセスするのは、それほど難しいことではない。モジュラーケーブルでノートパソコンのモデムと電話機を接続するだけで、安定した通信をすることができる。

ISDN 公衆電話はどこにある？

現在どのISDN 公衆電話機からも、パソコンなどの通信端末からオートダイヤルが可能になっている。また最近新しいタイプのISDN 公衆電話機（シルバークレーのボディで比較的大きな液晶ディスプレイがついている）が、ターミナル駅および駅周辺、NTT 各支店内やその近辺、ホテルのロビーなど、人の集まる場所にはかなり広範に設置されている。

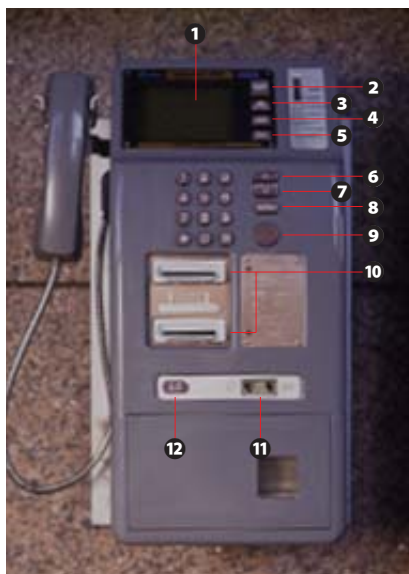
ソフトの設定は「プッシュ」回線に

ダイヤルアップ接続ソフトの「電話機の設定」がダイヤル（パルス）回線になっている場合は、プッシュ（トーン）回線の設定に変更するか、電話番号の先頭にAT コマンドの「ATDT」を挿入する。

ダイヤルアップ用ソフトで接続する

ISDN 公衆電話にはカードと硬貨が使えるタイプとカードのみが使えるタイプの2種類あるが、基本的な操作は同じだ。

1. 端末を準備してモジュラーケーブルを公衆電話機のアナログ端子に接続する。ISDN 回線を利用する場合は、デジタル端子に接続する。
2. (切替) ボタンを押して「アナログ端子」(ISDN の場合は「デジタル端子」)の表示が反転表示になるようにする。
3. テレホンカードを挿入する。
4. 端末からオートログイン操作を行う。
5. サーバーに接続される。



ISDN 公衆電話機（新型）

- ① 相手先番号、残数などの情報や操作説明を表示する液晶ディスプレイ
- ② ボタン1：操作説明 / HELP（一回り大きいボタン）
外部端末を使ってデータ通信をする場合の操作方法が表示される。
- ③ ボタン2：ON HOOK
- ④ ボタン3：メモ / MEMO
- ⑤ ボタン4：リセット / RESET
相手が話し中のときや別の相手に電話をしたいときに、硬貨やテレホンカードを戻さずにもう一度ダイヤルできる
- ⑥ ボタン5：音量UP
- ⑦ ボタン6：音量DOWN
- ⑧ ボタン7：サブアドレス / SUBADDRESS（大きめのボタン）
INS ネットのサブアドレス機能を使う場合に使う。電話番号 サブアドレスボタン サブアドレス番号 スタートボタンの順に押す
- ⑨ ボタン8：スタート / START（丸いボタン）
- ⑩ カード挿入口：2つあるうちのどちらでもOK
- ⑪ カバーを開けるとデジタルとアナログの金属製の端子がある。大きい方（左）がデジタルで、小さい方（右）がアナログ
- ⑫ ボタン9：切り替え / SWITCH
公衆電話機と接続端末の切り替えを行う

モバイルコンピューティングを行ううえでの注意事項

出張・旅行先など自宅（職場）以外でアクセスするときは、必ずその近くのアクセスポイントの電話番号を調べて、あらかじめ設定したうえでアクセスする。事前の準備を怠ったために、いつもの電話番号設定でオートダイヤルをしてしまっただけで法外な電話料金を請求された、なんてことも往々にしてあるようだ。また、帰った後で元の設定に戻しておくことも忘れずに。

また、比較的電話機を占有する時間が長くなりがちなので、なるべくボックスの数が多い場所を選ぶが、どうしてもそこしかない場合には必要なことだけを手早く済ませるように心掛けたい。

ISDN 公衆電話ボックスに望むこと

最近のISDN 公衆電話ボックスは、テーブルらしき台があったり椅子（もどき）が設置されていたりして、以前に比べれば使い易くはなっているが、台の高さが中途半端だったり、椅子があっても使い勝手が悪く、まだまだパソコン通信をする環境としてはとても快適とはいえない。というより、極端に腰を曲げたり身体を無理にひねらなくてはならないものがほとんどで、かなり我慢を強いられる。これが固定式の椅子ではなく、90度引き出せる可動式のものになれば、テーブルに端末を置いたときに端末に正対して操作ができ、ずいぶん楽になるだろう。工夫を望みたいところだ。



MOBILE

モバイルコンピューティングで「ラクラク」出張

編集部

出張先でも自分宛に届いたメールを読みたい、会社のサーバーにあるソフトウェアやデータをダウンロードしたい、ホームページのメンテナンスをするために大量のデータをFTPしたい。こんな要望を実現するためには、モバイルコンピューティングを側面から支援してくれるプロバイダーを選ぶことが大切だ。

【 国内出張編 】

国内出張にはこのプロバイダー

ダイヤルアップ接続ではプロバイダーの利用料金のほかに、距離に応じた電話料金がかかる。出張先から頻繁にアクセスする場合は、自分の本拠地と移動先の近くの双方にアクセスポイントがあるプロバイダーを選ぶことになる。ただし、アクセスポイントは大都市中心に設置されているし、最近増えてきた地域密着型のプロバイダーは地方にアクセスポイントがあるものの準備範囲が狭い。すでにプロバイダーに加入している人はモバイル用のプロバイダーを新たに検討してもいいだろう。

そこで本誌p.310からの「日本のアクセスポイントマップ・ダイヤルアップ接続(アナログ・ISDN)」が参考になるだろう。出張先にアクセスポイントがあるプロバイダーとその回線速度が一目瞭然だ。ただし、中には各アクセスポイントごとに別会費を払う必要があるところ(リムネットなど)もあるので注意してほしい。

どこでも高速な通信をしたい

出張先でもインターネットのすべてのサービスを快適に利用したいときはISDNを利用したダイヤルアップ接続が一番だ。ISDN対応の公衆電話も増えてきたことだし、検討してみてもいいだろう。ISDN回線のアクセスポイントを全国規模で持っているプロバイダーにNTT PC コミュニケーシ

ョンズのInfoSphere や日本電気のC&C Meshがある。ただし、一般的にはモデムの最高通信速度28800Kbpsのアクセスポイントが多いプロバイダーを選ぶことになるだろう。表①に示すのが28800bpsのダイヤルアップ回線を持つプロバイダー上位5社である。

メールをどこでも読みたい

外ではメールしか利用しないという人は、回線スピードは必ずしも速くないものの全国にネットワーク網を持つBBS系のプロバイダーやVAN回線を利用できるプロバイダーを選んでもいいだろう(表②③)。

パソコン通信をしている人によく知られているVAN回線は、インターネットとゲートウェイ接続してダイヤルアップ用のアクセスポイントを提供しているところもある。VAN業者経由の接続には、プロバイダーへの接続料金のほかにVANの基本料金と回線使用料が必要となる。その中でTYMNETを運営しているNISが行っているインターネットサービスでは、TYMPAS基本料が無料になる特典を設けている。

出張先のホテル選びも大切

出張先の近くにアクセスポイントのあるプロバイダーを見つけても、滞在先のホテルの部屋にモデムを接続できるモジュラージャックがついていないと一苦勞である。

ニフティサーブのフォーラムONLINE TODAY JAPAN Station (FOLTJ) のデータライブラリの5番にはモジュラージャック

付きホテルが278件登録されていて検索もできる。また、実際に宿泊して通信を試みた個人の報告も掲載されている(表④)。このフォーラムで出張前に確認しておくといだろう。(注意: データの中には古いものもあり、実際の宿泊前には自分で再確認すること)

なお、大きなビジネスホテルでは、ファクシミリやパソコンなどが用意されたOALームなどがあって、モジュラージャック付きの回線が使える場合もある。

表①: 28800bps 対応のアクセスポイント数

1.	InfoSphere	(29)
2.	C&C Mesh	(17)
3.	ASAHI-ネット	(13)
4.	BEKKOAME	(11)
5.	IJ	(8)

表②: アクセスポイントの多いプロバイダー上位3社

1.	ASAHI-ネット	105か所
2.	NIS インターネットサービス	37か所
3.	InfoSphere	29か所

表③: VAN回線対応のプロバイダー

リムネット東京第1ドメイン	(Tri-P)
TWICS	(Tri-P)
Star-Internet	(Tri-P)
NewCoara	(Tri-P/TYMNET)
ASAHI ネット	(Tri-P/TYMNET)
ParkPlace	(TYMNET)
NIS	(TYMNET)
サイバーテクノロジーズ	(TYMNET)

表④:モジュラージャックが使えるホテル

ホテル名	所在地 電話・FAX
キャピトル東急ホテル	東京都千代田区永田町2-10-3 TEL.03-3581-4511 FAX.03-3581-5822 コメント:(93年)2月21、22日と千代田線国会議事堂前駅前のキャピトル東急に宿泊しましたが電話機はモジュラー・ジャックで0発信で98ノートでアクセスすることができました。(MADI)
三井アーバンホテル大阪ベイタワー	大阪市港区弁天1-2-1 TEL.06-577-1111 FAX.06-576-5155 コメント:電話機側モジュラーを宿泊時確認(94年3月)、通信実績有。(JIMBEY)
東横イン	名古屋錦・浅草駒形・浅草・横浜関内・郡山・蒲田I・蒲田II・横浜西口・仙台・川崎小川町・川崎駅前本町・千葉幕張・津田沼・船橋 コメント:<東横イン津田沼>部屋にはキッチン(電器調理器)が備え付けてありました。値段の割に部屋も広くなかなか良いホテルでした。(服部倉吉) WWW上(http://www.inn-info.co.jp/)に各ホテルの情報が掲載されており、予約のメールも出せるようになっている。
ガーデンホテル	日立・柏・千葉・蒲田・長野・広島・熊本 コメント:<三井ガーデンホテル広島>電話機側モジュラー。93年6月12日宿泊時。通信実績無しですが、参考までに。(JIMBEY)
サンルート	八戸・仙台・福島・酒田・新潟・滑川・田園高津・四日市・奈良・広島・熊本 コメント:<ホテルサンルート酒田>実際に宿泊して確認(93年9月26日)、壁にモジュラー端子有り。すべての部屋にモジュラー端子が付いているわけではなさそうですが、少なくとも6,900円の部屋には付いています。ただし、電話側は全室モジュラー端子のようです。(Hero)
プリンスホテル	幕張・東京・高輪・新宿・品川・川越・飯能・横浜・新横浜・横須賀・大津・京都宝ヶ池・広島・守口・徳島・北九州・長崎 他 コメント:<宝ヶ池プリンスホテル(京都)>京都の宝ヶ池プリンスホテルですが、モジュラージャックです。見たところ4芯なんですけど、そのままモデムをつないでゼロ発信でいけます。(猫が好き)

注:モジュラージャックの有無は編集部で確認(1995年11月)、各コメントはニフティサーブのFOLTJ掲載のデータより、報告者の許可をいただいたものを掲載しています。コメントの後の()内は報告者のハンドル名です。

京の町で「あたふた」モバイルコンピューティング 光本貞子

インターネットマガジンの今月号の表紙は舞妓さんが京の風情ある町並みの中、Panasonic社製PHS(実は表紙の写真ではよくわからないかも知れない)を持って歩くという構図。この表紙のテーマが決まったのが入稿の5日程前で、本誌のADは東京を離れることができなかった(フィニッシュワークをやっていた)。そこで撮影班(光本+カメラマン)がデジタルカメラで撮影した画像を通信で東京に送り、それをADが確認して指示をフィードバックするという段取りになった。

持っていった機材

CASIO QV-10 / PowerBook 5300cs+REX-5568 (ラトックシステム社製の28.8Kbpsカードモデム) / 接続ケーブル、他

ロケハン前日の準備

電話にてホテルの部屋にモジュラージャックがあることを確認し、Appleのリモートアクセスを設定。

撮影1日目

撮影班が京都に着いたのはすでに夕暮れ時。街の灯りをたよりにQV-10でなんとか撮影。ホテルに戻るとQV-10で撮影した画像をPowerBookに転送し、さあ接続。しかし……つながらない。何度かチャレンジしたがダイヤルの音さえしない。困って事務所連絡をしようと、リモートアクセス設定の「ダイヤルトーンを無視」をチェックしるとの指

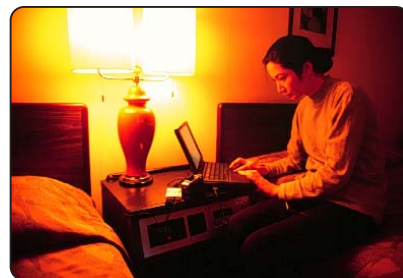
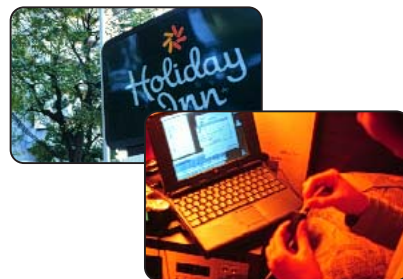
示。今度はダイヤルの音がして無事つながった。これでやっと送信成功。電話で送った画像について説明をする。この後でもう一度接続し、東京から、先ほど送った画像を使ったレイアウトが届く。そしてあれこれ打ち合わせ。

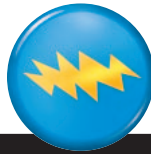
撮影2日目

早朝から撮影。その後でISDN電話の近くにあった喫茶店で画像をPowerBookに転送する。今度はADの自宅にアクセスだ(フロに入りたと言って?彼は自宅にいた)。電話機のモジュラージャックに接続するが……つながらない。何度チャレンジしてもつながらない。少しあきらめかけたときに、もしかしてと思いながら隣のジャック(アナログ)をにつなぎ直して再チャレンジ。つながった!(このときアナログ端子を使うのが正しいと知る)QV-10のファイルは1個26Kバイトなので、5つ送っても転送時間は数分で済んだ。

今回のモバイルコンピューティングでは通信経路をインターネットとARAの2システムを用意したが、実際に使ったのはインターネットではなくARAだった。これは、接続がダブルクリックだけで行えることと、ARAのほうがバイナリー転送が速い(気がする)からだ。なぜかインターネットはうまくつながらなかった。やはり仕事で使うものは確実性が必要で、いくつかの方法を用意しておかなければと痛

感する。現状では実際に印刷で使える画像(A4の印刷用データは40Mバイトにもなる)こそ送れないが、今のモバイル環境でもクリエイティブな共同作業が十分行えることがわかった2日間だった。次はビデオも持って行って、画像は荒くてもよいからライブで飛ばそうと……。(オイオイ)





【 海外出張編 】

海外出張に向くプロバイダー探し

海外でのモバイルコンピューティングで問題になるのがプロバイダーだ。滞在が短期なら、日本のアクセスポイントへ国際電話をするという手もあるが、長期の滞在では費用がかさむ。そんなときは思い切って現地のプロバイダーに入ってしまうのも1つの手だ。ただし、資料はたいてい英語もしくは現地の言葉で書かれていることを覚悟しなければならない。もう1つの方法は、世界各地にアクセスポイントを持つプロバイダーもしくはVAN業者に日本で加入することだ。

現地のプロバイダーに入る

海外のプロバイダーの所在地やサービス内容、費用などを知りたいときに役に立つのが、世界各地のプロバイダー情報を集めたWebのページTHE LISTだ。利用者のコメントも掲載されている。

URL <http://thelist.com/>



日本で加入できる国際的ネットワーク

CompuServe

世界中からInternetにダイヤルアップ接続ができる「世界最大」のプロバイダー

入会者数400万人のCompuServeは今年からインターネットのPPP接続サービスを始めている。月額9.95ドルの固定料金制で毎月5時間まで利用できる。それを超える分については1時間2.95ドルがチャージされる。インターネットへは月3時間まで無料でアクセスでき、以後は1時間ごとに2.50ドルのチャージ。Internet Club制度を利用すると月額固定料金 + 15ドルで20時間まで利用が可能になり、超過分は1時間1.95ドルである。加入はNIFTY-Serveのイントロバックやオンラインで可能だ。設定・接続方法についてはCompuServeから「go ppp」で情報を得ることができる。なお、メールだけならインターネットメールも送れるNIFTY-ServeをCompuServe経由（CompuServeのIDがなくてもOK）で使う方法もある。この場合、NIFTY-Serveの利用料金に加えて20円/分の国際回線使用料金が加算される。



IBM インターネット接続サービス OS/2ユーザーなら検討の価値あり

OS/2の付属ユーティリティのIBM Internet Connectionは、インターネットへのダイヤルアップ接続サービスに対応したツールで、あらかじめIBMの行っている「インターネット接続サービス」が使えるように設定されている。申し込みもそのままオンラインで可能。利用料金は初期費用が2,000円、月額基本料（3時間まで）が1分20円となっている。国内でのアクセスポイントこそ7か所とまだ少ないが、接続用ソフトには世界19か国でアクセスできる電話番号が登録されている。各国のアクセスポイントは、インターネット上でも見ることができる。

URL <http://www01.ny.us.ibm.net/phoneint.html>



Microsoft Network

今後の拡充が期待される世界規模のネットワーク

Windows95は今話題のMSNの利用とともに、インターネットへのダイヤルアップPPP接続を標準で装備している。MSNのアクセスポイントの数は全世界で1,000か所ともいわれているが、TCP/IP接続に順次対応していく予定で、MSNはインターネットプロバイダーとしての機能も持つようになる予定だ。運用が開始されたアメリカでは月3時間までで年間40ドルというプランから、月20時間で毎月約20ドルといったいくつかの料金パターンが設定されている。日本国内でのインターネットへの対応はまだ未定である。

PSI ジャパン

全米140都市にアクセスポイントを持つ

PSIジャパンはアメリカの大手商用プロバイダー Performance Systems International社の日本人。個人用ダイヤルアップ接続サービスであるInterRampは、日本で申し込んでも全米各地のアクセスポイントを利用できる。初期費用は9,000円で、月額基本料は10時間から30時間までのプランがあり、費用は3,000円から9,000円となっている。日本国内での超過料金は1分9円で、米国のアクセスポイントを利用する場合は1分3円がチャージされる。

URL <http://www.eccosys.com/PSI/>



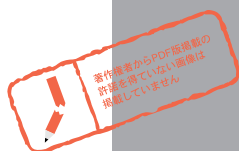
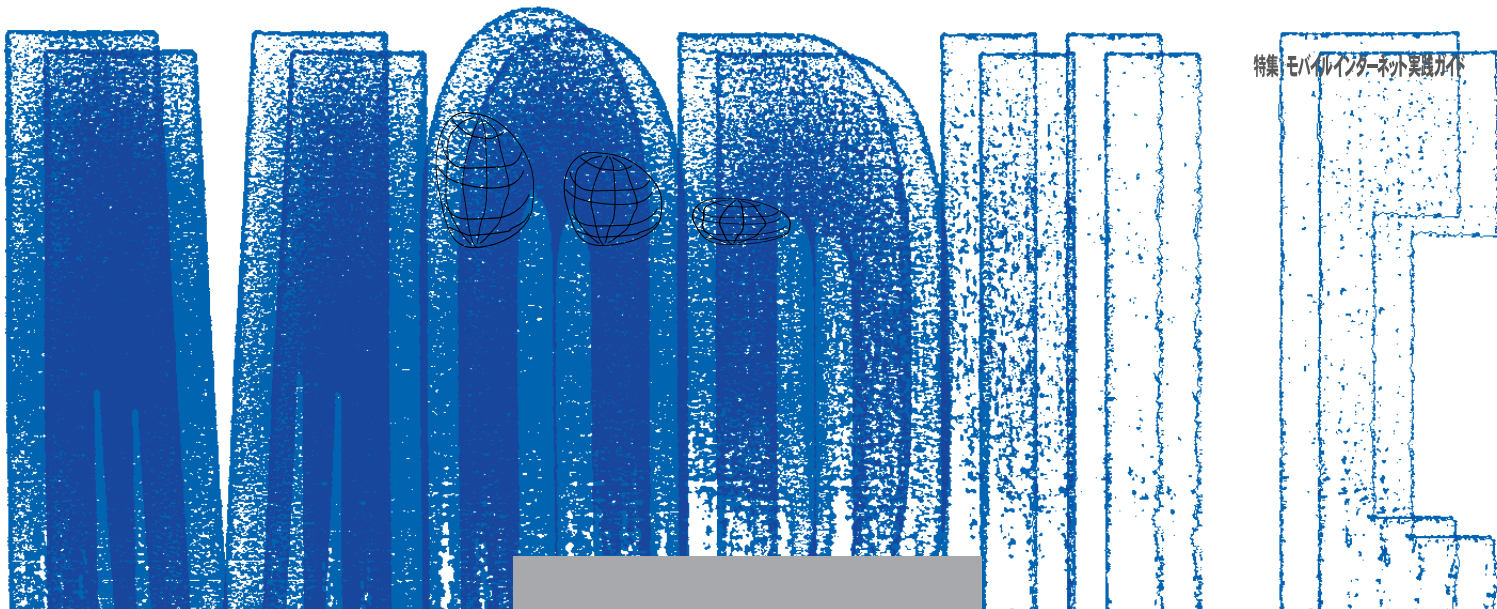
TYMNET

海外35か国からPPP接続可能

TYMNETの料金は、時分課金制、バイト課金制、併用制。フリティッシュテレコム社ファミリー直管ノードのある世界35か国からパケット網経由でアクセスが可能。V.32規格のモデムで、9600bpsの回線速度で接続できる。海外からのアクセス料金は1分30円となっている。

URL <http://www.nis.co.jp/jp/whatsnew/tympas.html>





さあパソコンを抱いてモバイルコンピューティングに出かけよう!

モバイルコンピューティングの醍醐味

この特集の編集作業が佳境のとき、私（副編集長・中島）はなんと2週間の海外出張に出かけることになった。1年半にわたって実践してきたモバイルインターネットワーキングの環境を海外に持ち出して編集部にアクセスし、いつもどおりのペースで仕事をしている。いうならばこの特集はモバイルコンピューティングを駆使してできあがったのである。

モバイルコンピューティングでは、いつも使っているノートパソコンを持ち歩くというのはけっこう重要なポイントだ。安定した通信環境が確保できるし、使い勝手に苦労することもない。それに手に馴染んでいないと面倒くさくて、なかなか出張先でコンピュータを使おうという気分にはなら

ないだろう。旅には新しい靴より履き慣れた靴が楽のように、多少古かったり重かったりしても、使い込んだパソコンはなかなか手放せない。

同じことはソフトウェアについてもあてはまる。電子メールをいつも使っているから旅先でも電子メールを読む価値があるわけで、「普通は電話なんだけど、出張するからメールでね」なんていう利用法では、相手も自分もぜんぜん便利にならない。

「コンピュータを持ち歩いてまで仕事をしたいか」という意見もある。しかし、私はモバイルコンピューティングに大賛成だ。もし、モバイルコンピューティングができなければ、今回の出張でも編集部のみんなに迷惑をかけて実現しなかっただろうし、そもそも取材のアポやコーディネーターとの打ち合わせをしながら移動するという長期

の取材は成り立たなかった。もうモバイルはマニアの遊びではなく、いままでよりも行動範囲を格段に広げてくれる必需品なのである。そう、自分に代わって情報という獲物を追いかけてくれる猟犬を連れていているような感覚があるのだ。

現在でも本誌に紹介したような機材とノウハウだけで十分「仕事に使える」モバイルコンピューティングが可能だ。だが、来年こそが本格的なモバイルコンピューティングの年になるかもしれないという予感がある。というよりも、それが時代の流れであることを、ここまで読んでいただけた読者の方には気づいていただけただろう。そこで、次号の特集「96年インターネットはこうなる！」では、モバイルコンピューティングについても大胆予測を行う予定だ。乞うご期待！



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp